

5月3日(月)～5日(水)那覇新港埠頭で、第36回那覇ハーリーが開催され、3日間で21万人が会場に訪れました。中学生爬龍船競漕では、市内18の中学校が参加し、那覇中学校が男女アベック優勝。爬龍船体験乗船には親子連れなどがエーク(櫂)さばきを体験しました。泊、那覇、久米による御願ハーリーの後、本ハーリーでは、熱戦の末に久米が今年の覇者に輝きました。夜には花火が打ち上げられ祭りの夜空を鮮やかに彩りました。



第36回那覇ハーリーに21万人来場

～本ハーリーは久米の勝利～

5月6日(木)に、道路ボランティア協定書の調印式が市長応接室で行われました。今回は、前島3丁目なかよしグループとダイワロイネットホテル沖縄県庁前の2団体が締結しました。前島3丁目なかよしグループの玉城貴子代表は、「花のある明るい街づくりに務めていきます」とあいさつし、ダイワロイネットホテル沖縄県庁前の今村裕支配人は「美化活動を行うことで、地域に愛されるホテルを目指します」と抱負を語りました。



みんなでまちをきれいに

～道路ボランティア協定書調印式～

「民生委員・児童委員の日」の5月12日(水)、仲村副市長へ「一日民生委員・児童委員」の委嘱状が交付されました。仲村副市長は、「身の引き締まる思いです。みなさまの活動は、協働のまちづくりになくてはならないものです」と日頃の民生委員・児童委員の活動に感謝をのべました。その後、市内の奥原モリさん(89歳)のお宅を友愛訪問。日頃から家族と一緒にカラオケに行くなど、とてもお元気で奥原さんは、「長寿の秘訣は感謝の心」と話していました。



一人ひとりが支え合う那覇へ

～民生委員・児童委員の日～

5月5日(水)、沖縄セルラーパーク那覇(奥武山屋内運動場)で、「那覇市児童館 あそびフェスタ2010」が開催され、多くの親子連れが訪れました。子どもたちの元気いっばいのエイサーや、バトンの演技でスタートしたイベントでは、午前中は「作ってあそぼうコーナー」が、午後は「スポーツコーナー」が開催されました。この日会場では、お父さんやお母さんと一緒になって、工作やスポーツを楽しむ子どもたちの姿が見られました。



「地球はね 笑顔が つまった星なんだ!」

(平成22年度児童福祉週間標語)

～那覇市児童館あそびフェスタ2010～

歴史博物館・壺屋焼物博物館合同企画展

那覇の壊滅と壺屋からの復興②



バッテリーケースと罫子(がいし)



戦後に掘り出した壺



米兵に群がる子どもたち(壺屋)



戦後、初めての窯焼きで焼かれた碗

1944年、沖縄の海域でアメリカ軍の潜水艦が出没したため、日本本土からの輸送が途絶え、県内では様々な物資が不足しはじめました。その不足分を焼物で補うため、焼物の町壺屋では、軍用の食器や電柱に取り付ける罫子、バッテリーケースなどを大量に製作していました。同年10月10日のいわゆる10・10空襲で那覇の市街地はほぼ全焼しましたが、幸い壺屋の町に大きな被害はなく、作陶に従事する男たちは変わらず兵隊用食器などを製作し続けました。しかし、翌年3月末、米軍上陸前空襲で、作りかけの製品を残したまま、皆、壺屋から避難し、その後捕虜となりました。

沖縄戦の終結後、収容所で生活をしてきた陶工たちは集められ、焼物を作るよう命じられました。戦争で何もかも失った住民には、まず食事をするための日用雑器が必要だっ

たからです。そこで11月10日、先遣隊と呼ばれる103人が壺屋に戻ってきました。終戦後、那覇市はまだ解放されておらず、一般住民として那覇入りを果たしたのは壺屋の陶工たちが最初です。彼らは半壊した家を修復しながら茶碗や土瓶などを作り、無償で配布しました。コーラビンを半分に分割ったものや空き缶を食器として使用していた住民は、焼物の温かさに触れ、喜んだということです。このように戦後の那覇は壺屋から始まりました。

壺屋には、その後も家族などが呼び寄せられ、1946年の12月には人口約8000人となり、壺屋を中心に、牧志、開南などへと街が広がっていききました。

お問い合わせ
那覇市歴史博物館
☎869-15266
那覇市立
壺屋焼物博物館
☎862-13761

那覇市歴史博物館
那覇の歴史・文化を体感!

競輪補助事業完了のお知らせ

この度平成20年度の競輪の補助金を受けて、左記の事業を完了いたしました。

記

- 一、事業名
平成20年度更生保護施設の新築整備補助事業
- 一、事業の内容
更生保護施設の新築
- 一、補助金額
一三六、四八五、〇〇〇円
- 一、実施場所
沖縄県那覇市首里平良町1丁目29番4
- 一、完了年月日
平成21年9月30日

(更)がじゅまる沖繩 理事長 大城光代

